

3. 福井市の夜間景観の現状

(1) 主要な夜間景観の眺望（視点場としての状況）



◆足羽山（自然史博物館屋上）からの眺望（近景～中景）

- ・足羽山の北東に位置する自然史博物館の屋上からは、市街地の夜間景観を 360 度見渡すことができますが、日常的には夜間に屋上にでることはできません。
- ・継体天皇像が置かれている三段広場からはかつて市街地を眺望することができましたが、桜等の樹木が生長したため、現在では一部視界が遮られます。



◆八幡山からの眺望（近景～中景）

- ・足羽山の南に位置する八幡山からは、市街地東部一帯の夜間景観を眺望することができます。
- ・足羽山、兎越山とともに足羽山公園として整備されており、展望広場が設けられています。



◆東山からの眺望（中景～遠景）

- ・福井平野の東部に位置する東山からは、市街地の東部地域を中心とした夜間景観を眺望することができます。
- ・一帯は東山運動公園として整備され、展望広場が設けられていますが、展望広場一帯は真っ暗な状況です。



◆深谷霊園からの眺望（中景～遠景）

- ・市街地の西部に近接する山並みの麓に整備された深谷霊園からは、市街地の西部地域を中心とする夜間景観を眺望することができます。
- ・写真手前側には、蛇行する日野川の流れを読み取ることができます（暗の空間）。
- ・特に視点場として整備された場所ではないため、一般には行きにくい環境にあります。

（山田清信氏 提供）



◆国見岳からの眺望（遠景）

- ・福井市の西部、標高約 656mの国見岳からは、市街地全体の夜間景観を遠景として眺望することができます。
- ・一帯は国見岳森林公園として整備されており、展望広場が設けられています。

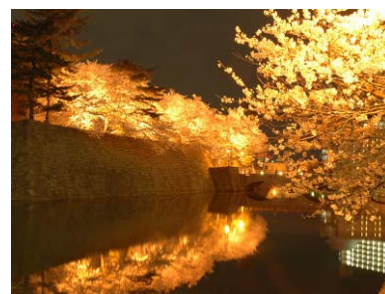
（堀誠一郎氏 提供）

（２）主要な界隈（福井都心地区）における夜間景観



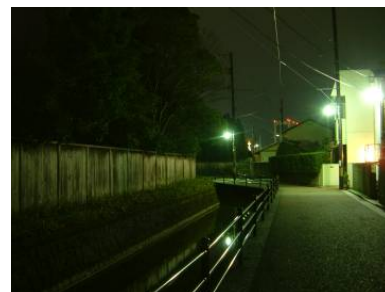
◆JR 福井駅周辺

- ・JR 福井駅は採光部を多く取り入れており、ここから漏れてくる昼白色の光によって白っぽい空間となっています。
- ・東口にある AOSSA は広場に面する側がガラス張りとなっており、建物内部の光によって福井駅と統一感が感じられます。
- ・福井駅周辺土地区画整理事業が行われており、西口の再開発と合わせて、今後新しい光が増えてくる場所です。
- ・また、冬季においては、市と民間団体との協働によるイルミネーションが行われています。



◆福井城址周辺

- ・笏谷石でできた石垣は色温度の低い光源でライトアップ（ライトダウン）されており、城址周辺の回遊ルート、近年整備された御廊下橋も同様の光源を用いた街路灯が整備されています（欄干には蛍光ランプが設置）。
- ・石垣の上及び周辺の回遊ルートにある桜は、春になるとライトアップされます。



（堀誠一郎氏 提供）

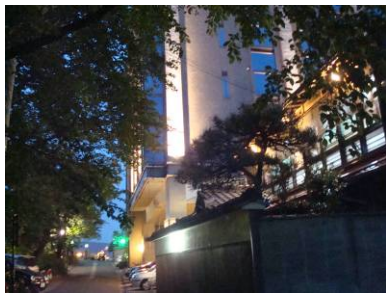
◆養浩館庭園周辺

- ・郷土歴史博物館の舎人門及び石垣は色温度の低い光源でライトアップされています。
- ・御泉水公園内も同様の光源を用いた低ボール照明が設置され、養浩館庭園の入口にはガス灯が設置されています。
- ・養浩館庭園の周辺は主に住宅地で、外周道路には防犯灯のみ設置されています。
- ・養浩館庭園内では、春季に地元組織によるライトアップが行われています。



◆中央 1 丁目周辺

- ・駅前電車通り、駅前南通り、ガレリア元町では、アーケード等からの色温度の高い光により明るい雰囲気となっています。
- ・北の庄通り、アップルロードでは色温度の低い街路灯が整備され、北の庄通りは季節によって色温度を変えています。
- ・これらの通りでは、商店街や民間団体と市との協働によるイルミネーションが季節に応じて行われています。



◆浜町界限

- ・現在は防犯灯による照明が中心ですが、舗装のグレードアップや河川改修等と合わせた街路灯の整備が計画されています。
- ・料亭などの玄関口から漏れてくる光が浜町界限の個性を特徴づけています。
- ・近年では、外構を良好にライトアップしている建築物、夜間の見え方にも配慮された建築物が増えてきています。



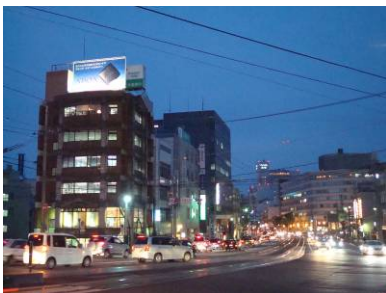
◆足羽山周辺

- ・足羽山へ登る愛宕坂には、普段は色温度の高い足下灯が千鳥に配置され、春季のイベント時には行灯が設置されます。
- ・足羽山（足羽三山）は市街地を見下ろす視点場でもあり、良好なパノラマ景観が広がっています。



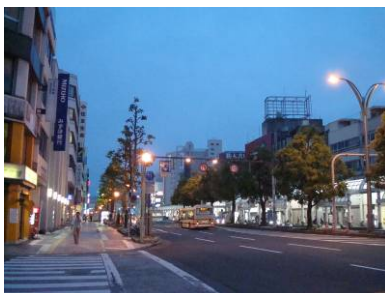
◆足羽川沿い

- ・春季には、ぼんぼりによる桜並木のライトアップ、堤防を利用した菜の花ロードのライトアップが行われていますが、通常時には光（照明）は全くなく、真っ暗な状況になります。
- ・足羽川に架かる幸橋、桜橋、九十九橋には色温度の低い照明が設置され、幸橋や桜橋では欄干や橋脚も演出されています。



◆フェニックス通り

- ・大名町交差点から裁判所前交差点の区間は、色温度の低い街路灯（帆船をイメージしたデザイン）で整備されています。
- ・大名町交差点～毛矢交差点の区間は、今後、色温度の高い街路灯（幸橋と同じデザイン）で整備される計画です。
- ・裁判所交差点より北側区間も現在は色温度の高い街路灯ですが、色温度の低い街路灯による整備が計画されています。



◆シンボルロード

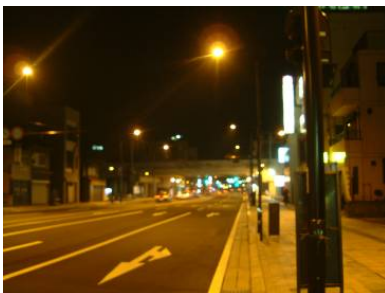
- ・JR 福井駅から大名町交差点の区間の南側は、アーケードからの色温度の高い光により明るい雰囲気となっています。
- ・JR 福井駅から大名町交差点の区間の北側及び中央帯には、色温度の低い街路灯（水仙をデザイン）が設置されています。
- ・大名町交差点から西側区間には、色温度の高い街路灯（水仙を近代風にデザイン）が設置されています。



◆大名町交差点

- ・デザインや色温度の異なる街路灯が整備されているフェニックス通りとシンボルロードが交差する大名町交差点は、それぞれの光が交じり合った空間となっています。
- ・角地に位置する建築物にはネオンサインや映像広告が設置され、まちかどに光を与えています。

（その他の主要な通りにおける夜間景観）



◆さくら通り

上：裁判所前交差点～宝永交差点
下：宝永交差点より東側区間

◆城の橋通り

上：豊島交差点より西側区間
下：豊島交差点より東側区間

上：◆東大通り

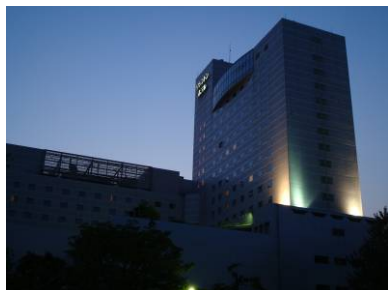
下：◆お泉水通り

（宝永交差点より南側区間）

- ・フェニックス通りやシンボルロードのほか、県が管理する路線については色温度の低い光源（ナトリウム灯）による夜間景観の統一を図っており、現在は色温度の高い街路灯についても順次統一される予定です。
- ・東大通りのケヤキ並木を利用して、市と民間団体の協働による冬季のイルミネーションが行われています。

(3) 主要な界隈（福井都心地区）においてライティングされている建築物等の例

- ・震災後約60年が経過し、建築物が一斉に老朽化を迎えている福井都心地区では、土地区画整理事業をはじめとする都市基盤の整備などに伴う建て替えが進んでおり、夜間景観あるいは夜間における来客者の誘導に配慮してデザインされたもの、外構に光を当てて形態・意匠を演出しているものが増えてきています。(p. 9～p. 11 との重複を除く)



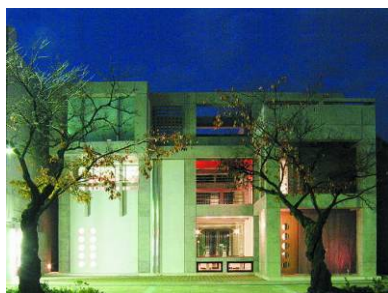
◆福井ワシントンホテル



◆ユアーズホテルフクイ



◆コマドリズム



◆ジュエリースカラベ



◆安久薬局



◆渡辺写真館



◆江守商事ビル



◆セーレン(株)新館



◆北陸電力福井支店社屋鉄塔



◆福井市文化会館

(堀誠一郎氏 提供)



◆旧足羽揚水ポンプ場



◆柴田神社、北ノ庄城址